

第25回大学教育研究フォーラム  
京都大学

## ポートフォリオ、学生カルテのシステム構築に向けて

[2年半の追跡調査に基づく アサーティブプログラム・アサーティブ入試の現状と課題  
—多面的な評価に基づく選抜の効果とは—]

福島一政（追手門学院大学）

# お話の内容

オйнаビとは  
なぜオйнаビが必要と考えたか  
これまでの進捗状況  
実際の画面  
先行大学の課題・問題点  
本学での開発方針  
今後の展開・課題

# オйнаビ（追大e-Navi）とは

**オйнаビ＝ポートフォリオ＋カルテ**

- 目的① 学生一人ひとりが自身の成長や学習成果の可視化ができ、自らの成長の振り返りと、一層の成長に向けての課題を主体的に考えることができる手段として活用できるようにする。
- 目的② 教職員が学生一人ひとりの成長を見守り、成長の滞っている学生に対して、主体性を引き出しつつ適切なアドバイスができる手段として活用できるようにする。

# なぜオイナビが必要と考えたか

- 学ぶ意欲が旺盛でも、関心のある領域の学ぶ機会や方法がわからないと、しだいに意欲が低下する。
- 「学修成果の可視化」は結果情報（ストック）であり、主体的な成長へのプロセス（フロー）がわからない。
- 教学マネジメントの基本は、CPやDPに基づくカリキュラムの体系化とそのマネジメントにあるが、学生一人ひとりの成長が担保されなければ「学習者中心の学びと教育」が実現できない。
- 本学の教育理念「独立自彊・社会有為」とりわけ「独立自彊」の意味＝自分の考えをしっかりと持ち、個性を大切にし、自らの成長に向かって日々、着実に努力すること、を文字通り実現するための手段。

## なぜオイナビが必要と考えたか（本研究との関係）

- ・本研究のテーマは「アサーティブ・ラーナーの学びと成長のプロセスを可視化する実証研究」
- ・研究目的は①アサーティブプログラム・アサーティブ入試の施策の成果を検証する、②入学前後の学生の学びと成長を追跡する総合的なアセスメント手法の活用、そしてこれらに基づく③成長要因のモデルを開発する。

\* 詳細は2018年3月発行の『「学びと成長の可視化」からその先へ』を参照ください。特にその巻頭で、池田輝政アサーティブ研究センター長の「ご挨拶」のタイトルが「学習者中心の学びと教育の実現・・・」となっていることに注目ください。

# これまでの進捗状況

フェーズ1 【2018年度春学期】

学生カルテとして教職員向けオープン（完了）

フェーズ2 【2018年度秋学期】

学生カルテとして学生向けオープン（完了）

フェーズ3 【2019年度春学期】

学生の成長可視化 + ポートフォリオ

# 実際の画面

・ 今の取得単位数やったら4年で卒業できるんだろうか？

・ GPA1.5ってどれぐらいの位置なんだろう？

→ まあきっとそこそこいいんやろうなあ・・・

・ 後70単位っていわれてもイメージがつかないなあ・・・

→ よくわからないけどまあなんとかなるか・・・



想像もしなかった自分史がはじまる

おうてもん  
追手門学院大学



・ GPA1.5ってどれぐらいの位置なんだろう？

→ 学科の中でかなり順位が低い！！  
来学期がんばらなやばいな・・・

・ 後70単位っていわれても イメージがつかない

なあ・・・

→ 全然所要単位に足りない・・・全単位とらなあ  
かん・・・

先生や教務課に相談してみよう・・・



想像もしなかった自分史がはじまる

おうてもん  
追手門学院大学

- ・ といえば2年生で学生表彰されてた！！  
エントリーシートに書いてみよう！！
- ・ 2年秋学期で80単位取得か・・・  
余裕がでてきたし、  
3年では就職活動や、  
ボランティア・資格の勉強にも力をいれてみよ  
うかな・・・



想像もしなかった自分史がはじまる

おうてもん  
追手門学院大学

# 先行大学の課題・問題点

## 【飽き】

→ 短い周期で記載することが義務づけられ学生が飽きる

## 【疲れ】

→ 義務づけられたことで学生・教員ともに負担が増化する

## 【離れ】

→ 飽きと疲れからそもそもログインすらしなくなる

= システムの過疎化が進み、せっかくのシステムが無駄に

# 本学での開発方針

学生・教職員ともに大きな負担にならず、  
かつ学生の成長を可視化するツールとして開発を進める

【例】 学生自身による自己目標と自己評価  
アセスメントテスト結果の年度毎掲載  
ディプロマポリシーと連動した評価軸の設定等

# 今後の展開・課題

- ・ アカデミックアドバイザーによる年2回程度の面談を実施できるかどうか。
- ・ 面談で、適格なアドバイスができるようになるために、教職員の相当程度の能力開発が必要（FD・SD）。そのためにはかなりの時間がかかるという覚悟ができるか。
- ・ オイナビを活用して、学生自身の成長実感が得られているかの評価・検証の仕組みが必要。
- ・ オイナビの取扱い基準の策定と厳格な適用。